あいさつ　　**感染症対策を加えてレジリエンス総合力向上へ**

石山　信郎（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室 室長補佐）

シンポジウムのあいさつに登壇した文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室の石山信郎・室長補佐は、防災に対する昨今の COVID-19 禍の影響について、「人が物理的に集まることができないという制約がある中で、広域に影響が及ぶような甚大な災害が発生した場合、従来の事業継続計画で対応できるか」と課題を挙げました。その上で、今回のシンポジウムが「各機関の持つデータを共有し、利活用することで、危機を乗り越える可能性が広がることを再確認するための機会」と位置付けました。

また、石山氏は昨年度のシンポジウムにおいて、地震災害に加えて台風、豪雨など、気象災害もターゲットとしたことを振り返り、感染症対策を対象とする今回のシンポジウムがレジリエンス総合力向上への取り組みをより進化させることに期待を示しました。